



2015年を振り返って

早いものであつという間に12月を迎えました。今年は、52年の人生の中でも、大きな転換となる年であったように感じます。その1つは、めぐみ在宅クリニックの常勤医師が増えたことです。2015年4月に3人、そして10月に1人と増え、合計常勤医師が7人となりました。これにより、院長が夜間の救急当番から外れることになりました。また土日とも昼間・夜の当番をお願いできる体制を取ることができました。このため、安心して土日を使った地方での研修会を企画することができるようになりました。全国の様々なホスピス・緩和ケア病棟や、在宅療養支援診療所の話を知ることがありますが、緩和ケアを担当できる医師が7名（正確には非常勤の医師を含めると8名ですが…）がそろっている施設はないと自負します。それも、個々に非常に高い能力があります。決して小澤院長のジェネリックではありません。そして、その個性ある医師を支えてくれている診療部があります。その志のある仲間のおかげで、めぐみ在宅クリニックでは、この1月から12月14日まで250名を越える在宅看取り実績となりました。来年は、さらに質・量とも加速していくと感じています。

もう一つの大きな変化は、エンドオブライフ・ケア協会を有志と一緒に立ち上げることができたことです。今までJSPとしてクリニック内で行っていた2日間の研修会をブラッシュアップしてエンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座として、東京3回、大阪、名古屋、福岡と合計6回開催することができました。嬉しいことは、志のある仲間に出会うことができました。あくまで2日間は入学式として、学んだことをそれぞれの現場に戻って実践していただき、学び合うことを意図としています。終了後に課題を提出して頂くのですが、その一つ一つが嬉しくなります。今まで、自分の診療の範囲だけが良ければ良いとは思っていないことを話してきました。どれほどめぐみ在宅クリニックが頑張ってもせいぜい診療の範囲は限られています。年間に数百人程度しか関わることができません。ところが、エンドオブライフ・ケア協会を通して、2日間の研修を行うことで、少なくとも、これだけの誠実に援助している仲間が、それぞれの地域にいると思うと、感動を覚えます。1年後はいったいどうなっているのでしょうか？時代は、病院から地域での療養支援にシフトを強めていくでしょう。2016年の診療報酬改訂も、そのメッセージが強くなることと予想します。総論ではなく、各論を。具体的に何をしたら良いのか、援助を言葉にすることを2日間研修として進めていきたいと思えます。さらには、eラーニングなどを利用した学ぶこと、さらには、ディグニティセラピーなどについても学べる環境を整えていきたいと思えます。もう一つ、ニュースとして、2016年1月に本を出版します。最近の2冊は、主に医学関係の出版でしたが、今回は一般書です。この仕事の魅力である“人はただ苦しむのではなく、苦しみを通して気づかなかった大切な自らの支えを知る”ということを一般向けに紹介しました。「今日が人生最後の日と思って生きなさい」という、やや上から目線のタイトルですが、2025年問題を考えると、少しインパクトのある形で、世に問いかけてみたいと思えます。

小澤竹俊

2015年で変わったこと

2015年で一番変わったことは、スタッフが増えたことです。今までは、新規の訪問は、院長が主に担当していました。しかし、4月より常勤医師3人がふえ、さらには10月にもう1人増えたことにより、一度に3-4人の新規訪問を受け入れることができるようになりました。変わったこととして、夕方に診療部で患者さんのふりかえりを行うことができるようになりました。特に日の単位で病状が変わっていく患者さんの情報を共有するだけではなく、困難な事例への対応の仕方や言葉のかけ方、援助者としての意識のあて方などをスーパーバイズすることができるようになりました。2015年で変わったことの1つとして、診療部のスペースを確保するため、更衣室の場所を変更しました。コンビニの跡地から今のテナントに移動するときには、大きすぎて狭くなることはしばらくないと思いましたが、わずか5年でせまくなりました。もっと大きなテナントを購入しておけば良かった…とは思いませんが、嬉しい悲鳴です。そして、患者さんが増えました。めぐみ在宅クリニックは、施設を丸ごと担当することはありません。あくまで自宅での訪問を中心に活動をしてきました。去年までは200名を越えることはあまりなかったのですが、今年になり、あつという間に280名前後となりました。不思議に医師が増えると、自然と患者さんが増えていきます。来年はもっと変わっていくことでしょう。変化にきちんと対応できるように変わっていききたいと思えます。

2015年で変わらないこと

変わらないこともあります。それは、1人ひとりをていねいに診察していくことです。うれしいことに、めぐみ在宅クリニックで働く医師は、緩和ケアを学ぶことを目的としてお越し頂いていることもあり、関わり方がとてもていねいです。ですから、院長だけではなく、誰が担当しても、質の高い関わりを継続することができます。看取り往診のあと、短くお別れの挨拶を院長が行っていることも、他の医師も同様に挨拶をします。どんな人生を送ってきたのか、どのようなメッセージを家族に残そうとするのかを感じながらの挨拶は、これからも変わらず続けていきます。良い意味で、めぐみ在宅クリニックのブランドを守っていききたいと思えます。

診療実績

	2006-2014年	2015年 1月-8月	2015年 9月	2015年 10月	2015年 11月	2015年 計	総計
訪問回数	32,656	5,562	715	795	783	7,855	40,511
自宅永眠	1,286	152	18	24	20	214	1,500
施設永眠	129	18	4	4	3	29	158
在宅(自宅+施設)	1,415	170	22	28	23	243	1,658
病院永眠	330	43	4	7	9	63	393